



上北谷 笑楽好 だより No. 5

チャレンジ通信



いじめをしない・させない・見逃さない

令和5年9月22日

「笑顔いっぱい・楽しさいっぱい・みんな大好き」の上北谷笑楽好に

上北谷小学校 149歳 おめでとう

校長 藤ノ木 昌史

明治5年(1874年)、学制が発布され、日本各地に小学校が設置されました。そのころ設置された小学校が次々に150周年を迎えています。

上北谷小学校は、学制発布から少し経った明治7年に校舎を建築し、9月17日より授業を開始したと伝えられています。そこで、9月17日を創立記念日としています。今年で149周年、来年はいよいよ150周年の大きな節目の年となります。

上北谷小学校を愛する気持ちを高めてほしいと願い、毎年、学校にまつわる歴史や文化について子供たちに伝える創立記念集会を実施しています。今年は、学校の歴史を俯瞰しようと、上北谷小学校の149年の歴史を〇×クイズにして子供たちに話しました。

問題 (〇か? ×か?)	答	ミニ解説
① 「今の校舎は、できて21年になる。」	〇	2002年にできた校舎です
② 「体育館の壁の壁画は、前の古い体育館の壁に描かれたものを移して、貼りつけたものである。」	〇	矢沢幸の学習を進め、彼の詩を絵で表現し、改築に当たり、壊さずに新しい校舎に移したものです。
③ 「学校が米づくりを始めて24年になるが、はじめは5、6年生だけでやっていた。」	×	5年生だけで総合的な学習の時間に取り組んでいました。
④ 「上北谷小学校の名前は、149年前にできた時から同じ名前だった。」	×	10回名前を変えていました。
⑤ 「上北谷小学校は、できた時からここにあった。」	×	ここは、上北谷中学校の校舎でした。
⑥ 「上北谷小学校は、以前は上北谷公民館のところにあった。」	〇	明治12年から昭和54年までの約100年間、ちごし保育園・公民館・森林組合があるところにありました。
⑦ 「上北谷小学校の児童の数は、現在25人だが、前は、今の見附小学校の児童数512人より多い時があった。」	〇	昭和9年、548名在籍の記録があります。

〇か? ×か? 悩む子もけっこう多く、喜んだり悔しがったりしながら、学校の歴史について関心を高めてくれたものと期待しています。

もっともっといろいろな歴史や出来事が149年間の間にはあります。ご家族の皆様の中には、自分のこと、お子さんのことで、いろいろな思い出がある方もおられると思います。是非、ご家族の中でも話題にして、子どもたちの上北谷小学校への愛着を高めていただけたらと願います

これから、150周年を迎えるにあたって、様々な事業に取り組みます。ご家族、地域の皆様のお力添えを得ながら、上北谷小学校を愛する心、上北谷地域を大切にする心を高めていきたいと願っているところです。どうぞご協力をお願いいたします。



ちごしみず川と河野橋

昭和50年ごろの神保にあった校舎 「1975」の人文字が読める

9月の行事アルバム

9月4日（月） 昔語りを聞きました

太田町の佐野様から2学期1回目の昔語りを聞かせていただきました。今回は、「煮豆のおかわり」と「わらと炭と豆」の2本の語りを聞かせてもらいました。佐野様のやさしい語りに子供たちは引き込まれていました。ほのぼのとした中に、昔から人々が伝えてきた生き方の教えを感じさせてもらいました。



9月7日（水） グラウンドで虫探し



秋になると、山や周りの田んぼからトンボやバッタ・コオロギなどたくさんの虫たちが出てくるので、グラウンドで捕まえることができます。さっそく1、2年生が虫探しに出ていました。虫取り網をもってグラウンドを走り回る子供たちの姿は、上北谷小の秋の風物詩です。

9月7日（水） 全校遊びを楽しみました

全校のみんなで遊ぶことで絆を深め、素敵な「上北谷笑楽好」をつくろうと、定期的に取り組んでいる全校遊びです。

今回は、児童会運営体育委員会の企画で、全校リレーを行いました。運動会で大いに盛り上がった全校リレーを、体育館バージョンで実施しました。今日のレースは、最後まで競り、最後の最後、大逆転で赤チームが勝ちました。勝負を競い合い、頑張りをたたえ合い、みんなの絆を深める機会となりました。



9月8日（金） 学習参観&PTA整備作業



新型コロナウイルス感染症の流行前は、祖父母参観として、祖父母と児童の交流をメインにした学習活動を行っていたようですが、ここ数年は、交流を控えた形で行っています。それでも、楽しみにして学校に足を運んでくださる祖父母の皆様が多く、ありがたい限りです。

低学年は道徳の様子、中学年は認知症サポーター養成講座受講の様子、高学年は音楽の様子を参観いただきました。

学習参観後は、PTA整備作業として、体育館の下窓の清掃を親子で行いました。

沢山のほこりやごみがたまっていたものの、みんなの力で短い時間ですっきり、きれいになりました。



令和5年度「1学期 学校評価」の結果について

1学期の教育活動の成果と課題を、児童・保護者アンケート等をもとに職員で分析・整理し、改善点など今後の方向性を検討しました。報告いたします。

< アンケート結果 >

< ゆたかな心の育成 > ～『上北谷大好き』を育む～

目指す姿	達成目標値 (*肯定的評価割合)	回答数値	達成度
◎進んで地域とかかわる。 ① 地域の人やお客さん、友だち、先生に進んで挨拶する。 ② 友達や地域の人と協力して、地域の人や自然、文化に関わる活動に進んで取り組む。	90%以上 90%以上	100% 84%	A B
◎思いやりのある行動をとる。 ① 友達にやさしい言葉をかけたり、相手の気持ちを考えた行動をしたりする。 ② 友達と学習したり、活動したりする中で、友達の良いところを見付ける。	90%以上 90%以上	96% 84%	A B

*「肯定的評価割合」とは、アンケートで「よく当てはまる」「やや当てはまる」という肯定的な回答をした人の割合です。

< 確かな学力の育成 > ～学ぶ意欲を育む～

目指す姿	達成目標値 (肯定的評価割合)	回答数値	達成度
◎自分らしく主体的に学ぶ ① 「学びのパワーアップ大作戦」(話そう・聞こう)を気を付けて学習する。 ② 友達の考えと自分の考えを比べながら学習する。 ③ 計画的に自主学習に取り組む。	90%以上 90%以上 90%以上	60% 76% 92%	C C A
◎国語と算数の評価テストで、総合得点の平均を基準以上にする。	低学年 A : 90 点以上 中・高学年 A : 85 点以上	国語 A : 4 学年 B : 2 学年 算数 A : 4 学年 B : 2 学年	A A
◎学校以外で、読書を週に3日以上する。	70%以上	52%	B

< 健康でたくましい身体の育成 > ～強い心身を育む～

目指す姿	達成目標値 (肯定的評価割合)	回答数値	達成度
◎体育やチャレンジタイムの時間に、自分なりのめあてをもって、積極的に体を動かして活動する。	90%以上	96%	A
◎月～金曜日に、家に帰ってから、「おうちプラン」を守った生活をする	80%以上	76%	B
◎「健幸貯金」に進んで取り組む	80%以上	80%	A

< 分析 (○) と 今後の取組 (☆) >

< ゆたかな心の育成 > ～『上北谷大好き』を育む～

- 「進んで地域とかかわる」「思いやりのある行動をとる」は、共によくできています。教師の日々の働きかけ、児童会のあいさつ運動、絆集会の取組など、児童の意識を高め、実践力の向上につなげているものと捉えます。
- 今後も、児童一人一人の取組状況をしっかり把握し、承認や称賛を繰り返し、自己肯定感を一層高めていくことが大切であると考えています。
- ☆ 地域とかかわる学習では、上北谷のよさをたくさん見付け、「上北谷大好き」という心情を高める学習活動をこれからも積極的に進めます。自己評価の低い子に対して支援を厚くし、関わる意識や自己肯定感を高めるように働きかけます。
- ☆ 思いやりのある行動をさらに伸ばすために、日々の生活や学習活動の中で「頑張っている様子」「すごいところ」「やってもらってうれしかったこと」など、友達のよさに目を向けさせ、認め合うことを一層意識して進めていきます。

< 確かな学力の育成 > ～学ぶ意欲を育む～

- 計画的に自主学習に取り組んだり、全校テストに向けて練習を頑張ったり、上北っ子のまじめさがよく出ているように感じています。家庭学習カードを活用しながら、自分の力を伸ばす自主学習の進め方を継続する意義を感じています。
- 「学びのパワーアップ大作戦」の取組を今年度から始めましたが、教師、児童共に十分な取組には至りませんでした。児童の実態を把握しながら、スモールステップでめあてを立て、できる自信と挑戦するやる気を高めて行く必要を感じています。
- ☆ 国語・算数とも知識・理解面に対して、思考力・判断力・表現力の面で低い傾向にあります。つまずきの見られた児童には、丁寧に個別指導を繰り返していきます。週2回昼休み後半に設置してある個別指導の時間を一層有効に使えるようにしていきます。
- ☆ 「家庭読書」の達成数値はまだ低く、児童の取組に差が出ています。より多くの児童が読書に興味をもてるよう、読み聞かせやおすすめの本の紹介などやり方を工夫しながら、働きかけを継続します。
- ☆ 望ましい学習習慣の形成は、家庭と学校の連携があつてこそ成果が上がるものと考えます。声かけ、励まし、賞賛等、学習に向かおうとする子どもの意欲を高める働き掛けを共に進めていくことを願います。

< 健康でたくましい身体の育成 > ～強い心身を育む～

- 大変多くの児童が、めあてをもって体力作りに励んでいることがうかがえました。体育授業やチャレンジタイム、休み時間等、多くの運動場面を作り、励まし合いながら運動を楽しみ、技能習得が進む、それが子どもたちの喜びにつながっている一因と考えます。
- 「おうちプラン」の取組も3年目になり、定着とマンネリ化の両面がうかがえます。強調週間で弾みをつけ、日常的にもおうちプランを意識した生活ができるように、家庭と学校が連携して進めていくことが大切と考えています。
- 「健幸貯金」を自分の生活のめあての一つにして、楽しんで取り組んでいる子どもの様子を確認できました。ポイントの貯金が進む喜び、景品交換の喜びなど、一層意識付けて、全員が目標や楽しみをもって進められるよう工夫していきます。
- ☆ 運動する楽しさと体力の向上を目指し、練習方法・環境の工夫、学習カードの活用等、これまでの取組を継続して進めます。
- ☆ 自分の健康づくりのために必要な取組を個に応じた考えたり相談したりする体制を大切にしていって、特に自己評価の低い児童に対しては、個別の支援をしっかりと行い、できる自信や挑戦するやる気を高めていくよう働きかけを継続します。